

記戰波難

記

997



明治二十年五月三十日内務省交發



水村主計頭  
宗重

加藤清正の  
臣水村又義  
重徳の殿  
去て初名を  
虎松と号し  
殿中秀吉公  
の侍せむ大岡  
トて清正が武勇  
のゆゑとて其外頭



▲宗重と名の子母あつた  
元年五月に  
あつた

死に  
た  
る  
の  
と

全入り



山内主膳

桑名ハノリ

去依の玉守  
長多我部元  
親の屋あり

小枝  
桑名ハノリ  
桑名ハノリ  
桑名ハノリ



つと元和光  
五月大坂の  
うひ小長我部  
の屋あり  
海内ハノリ  
つと元和光  
つと元和光



桑名彌次兵衛

瀬田大炊介

瀬田大炊介は  
上杉家傳代の  
將士あり元和  
元策大坂の  
一戦小上杉景  
勝一の柵を攻  
め此大坂の  
生年十八あり  
先多の柵を  
一の柵を破  
り大坂方の  
わうー



瀬田大炊介

▲小早川左兵衛と  
組あつて  
左兵衛や付取  
その年の隊長  
井上と左兵衛と  
たふし勇



小早川左兵衛

至  
口



① 松尾の  
 水一人  
 西よあひ  
 大助  
 後入  
 と

勢

松八方より  
 おとく味  
 方おん



上田主水重安

初め丹羽  
 長秀の  
 上田左五郎重安

丹羽家を  
 後軍  
 松先軍

松井の  
 小てき

葉江木

四

渡邊勘兵衛

三河五郎の佐久間  
 初め明智光秀の旗本  
 河内津路奔命仕へり  
 所用を辭して村に歸る  
 つく百人扶持成  
 萬一二十一世ゆ  
 於此九秀孫の  
 閑人となり  
 後家後  
 本分境



みづく  
 なるが  
 日  
 の一人と稱せ  
 りる大坂せいの  
 と死 長考我部の風  
 山形五右衛門



山形五右衛門

山形五右衛門



博田石工門直之

源氏の長  
の産長  
の佐へて  
子の孫  
後秀吉公  
ふ仕へ又を  
左の女の屋  
とある後軍  
大坂への城  
か

元和  
元年五月  
田大隅と我  
ひて討たる

龜田の尾  
山の産本  
とて受ハ満



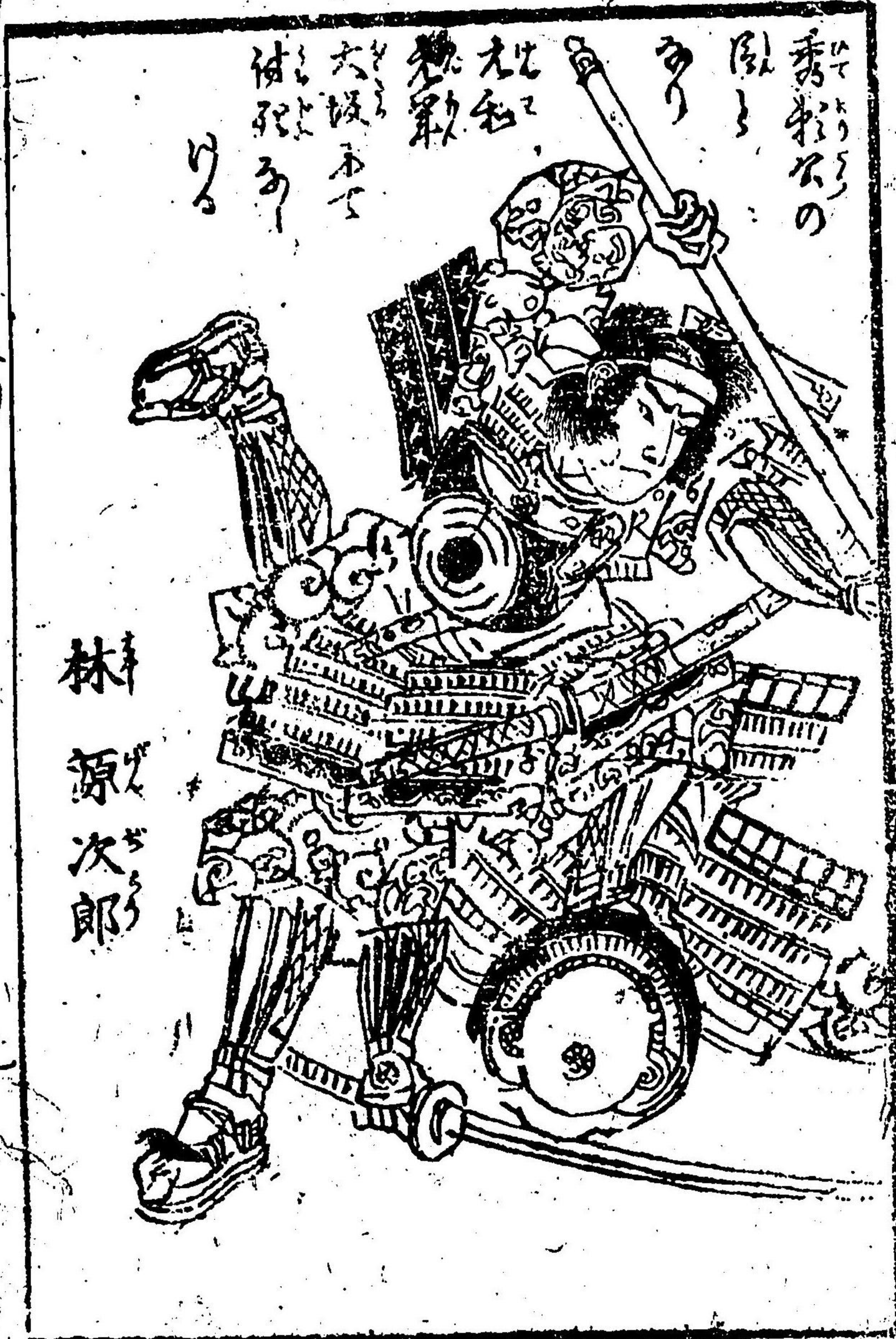
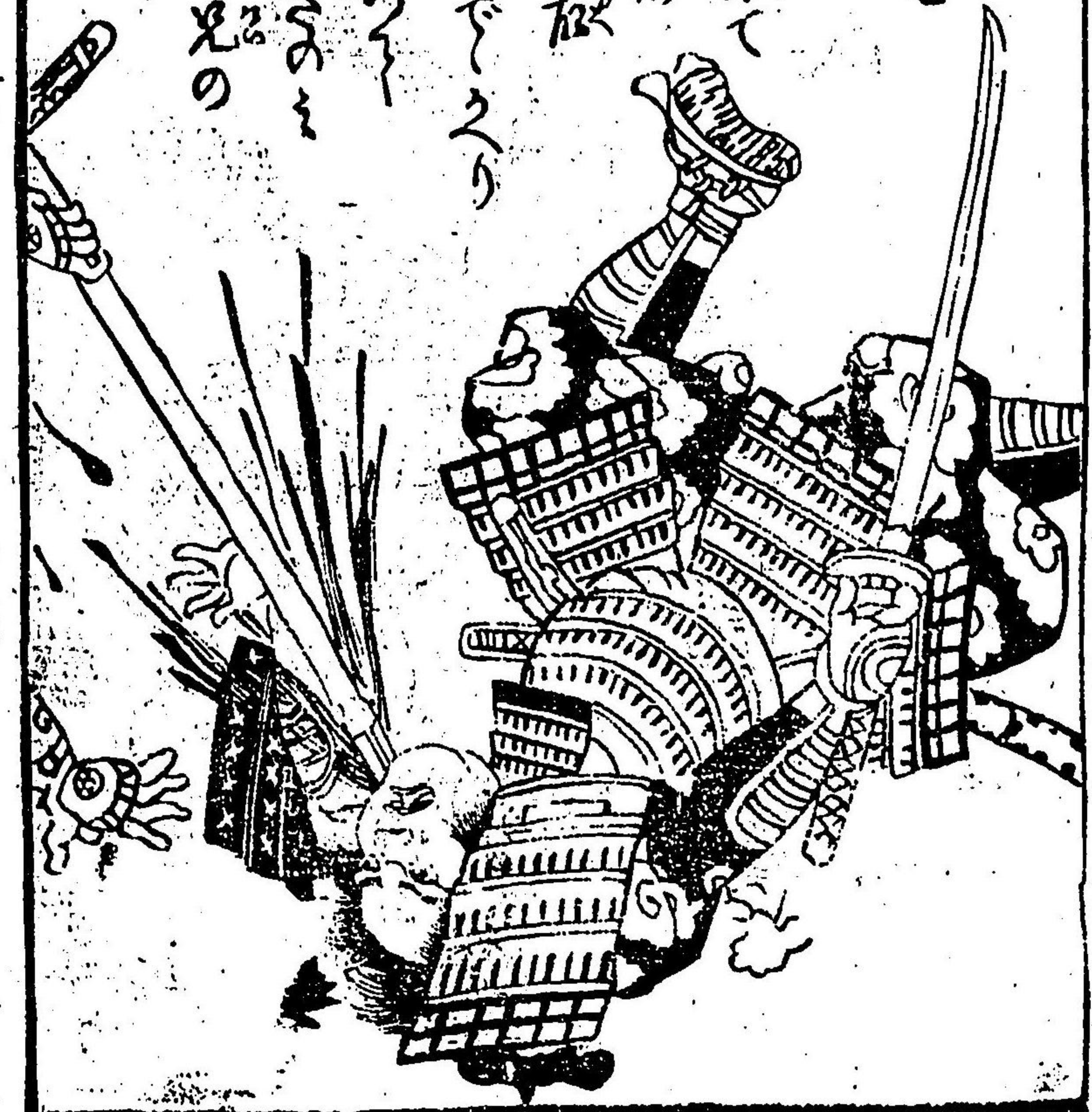
龜田大隅

若し柴田徳家の屋  
あり大隅初名津  
はまの産とひつ  
柴田伊賀守小佐  
けのが後沙弥家  
つと二男  
と領





源田秀家の老后  
林玄蕃元が次男を  
又玄蕃元が長女  
を侍守が通心不依て  
省たるる右のうら  
み晴敷せしむる樹  
見修織の仇討ふのでり  
付おあふこれおふり  
源田秀家の老后  
彼が助太刀あて又兄の  
仇や打退ふ



林源次郎

青木式部少輔信重

大坂七ヶ寺の一人

英蘭を敵とす

戦場数度の

功あり大坂巻

城の枵の雲

大軍を志す

きつひ

村ありて

後代にその名と



御用明治三十年一月廿日編輯新選組合本稿区方并下巻下次久次郎

